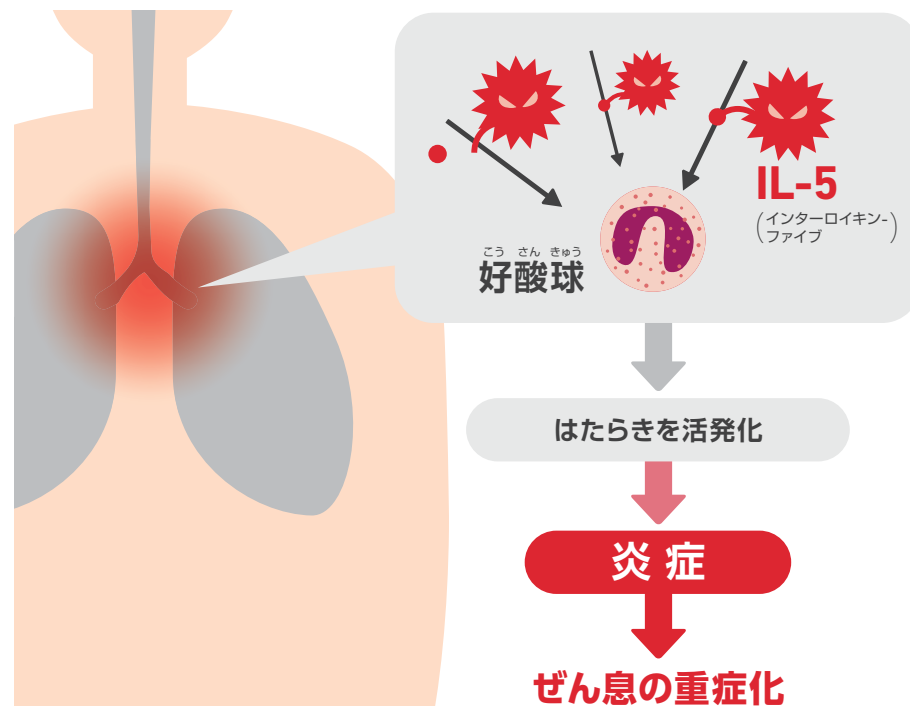


好酸球が引き起こす気道の炎症とぜん息

ぜん息の原因である気道の炎症には、
好酸球と呼ばれる細胞が深く関わっています。

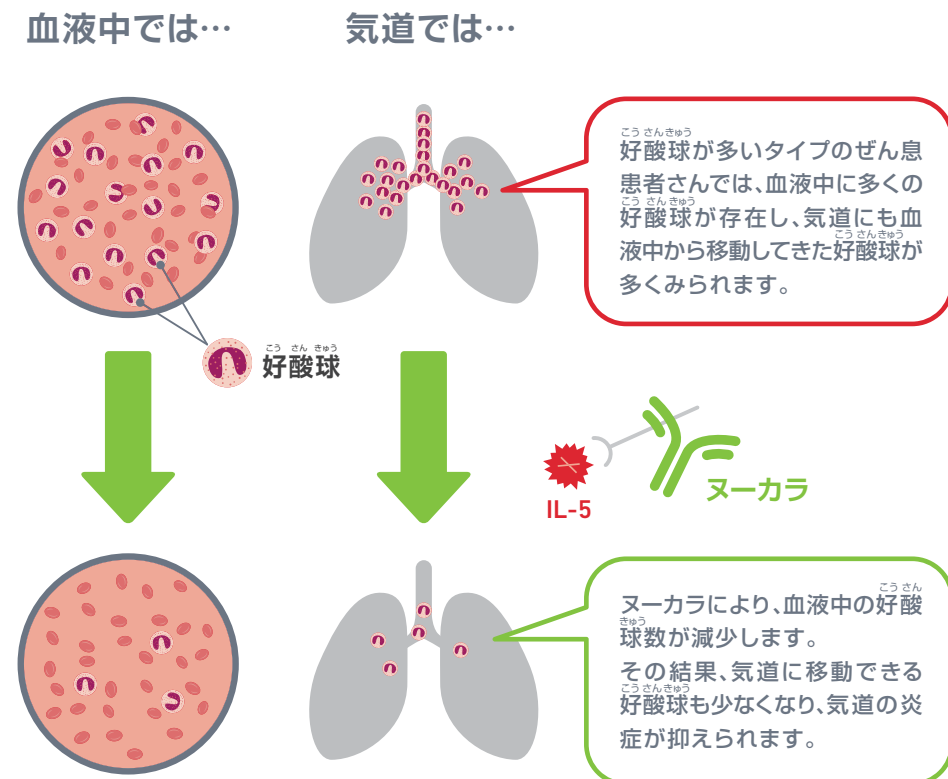
ぜん息は、気道(空気の通り道)に慢性の炎症が起こって狭くなり、呼吸がしにくくなる病気です。気道に炎症を引き起こしたり、ぜん息を重症化させたりする要因のひとつとして、好酸球と呼ばれる細胞が深く関わっていることが知られています。その好酸球のはたらきをより活発にするのが、IL-5(インターロイキン-ファイブ)という体内物質です。



ヌーカラの作用について

ヌーカラは、IL-5のはたらきを抑えることで、
気道の炎症を引き起こす好酸球を減少させます。

ヌーカラには、IL-5のはたらきを抑えて、炎症を引き起こす好酸球を減らす作用があります。これにより、気道に集まる好酸球が減って、ぜん息の症状がより良くコントロールされ、ぜん息の発作を減らすことが期待できます。

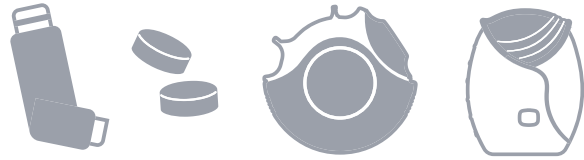


ヌーカラによる治療を続けることで、ぜん息症状の改善や発作回数の減少が期待できます

■ ヌーカラによる治療を受けるには…

ヌーカラによる治療は、以下の項目を満たしている患者さんが対象となります。
したがって、血液中の好酸球の数を調べるために、事前に血液検査を受けることがあります。

高用量の吸入ステロイド薬に加えて、
その他のぜん息治療薬を使っている。

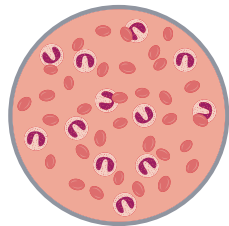


ぜん息症状がコントロールできない。
(以下のいずれか)

- 毎日ぜん息症状がある
- 週1回以上夜間症状がある
- 呼吸機能が低下している
- その他の症状



血液中の好酸球数が多い。
(個々人により値が異なりますので
主治医の指示に従ってください)



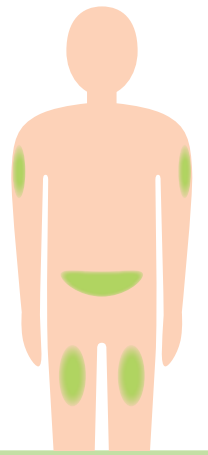
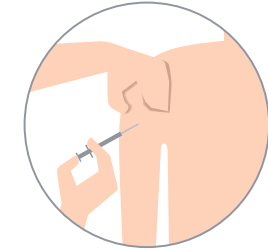
■ ヌーカラによる治療について

ヌーカラは、4週間に1回皮下に注射します

- ヌーカラは4週間に1回、
皮下に注射します。
主治医の指示に従い、
忘れずに受診してください。



- うで(上腕部)、ふともも(大腿部)、
または腹部の皮下に注射します。



■ ヌーカラによる副作用について

主な副作用は、注射部位反応、頭痛などです

海外で実施された臨床試験(対象に日本人患者を含む)でもっとも多く見られた副作用は注射部位反応や頭痛でした。承認時評価資料: MEA115588試験
注射部位反応とは注射を行った場合に起こる皮膚症状をいい、痛む、赤くなる(紅斑)、腫れる、かゆくなる、熱くなる(灼熱感)などの症状があらわれます。

ヌーカラは、決められたスケジュールにしたがって
定期的に投与を受けることでぜん息症状の改善や発作回数の減少などの治療効果が期待できます